



小池 光選

還暦後に始めた習字見てよとふ姉の毛筆準六段に

【評】このお姉さんはすごい。還暦になって始めた書道に熱中し、みるみるうちに腕を上げ「準六段」にまでなった。世の中にはこういう人もいる。お手本になんてはならない。「ばあちゃんを今でも好きか？」問ふ孫に「むろん」と云へば「わたしも」と妻

城陽市 相原 洋次

【評】これ以上ない、幸せな夫婦。孫の詰問に間髪入れず「むろん」と答え、妻また「わたしも」と応ずる。圧倒される。

前足で引き戸を開けて通る猫閉めてくれたら文句はないが

北九州市 白木 典子

【評】猫は戸を開けて入ってくるが、それを閉めることはしない。仮にそうしたとすれば、その猫はもはや猫ではない。

「さよなら」とわずかに読めるメモ用紙残して喉とりし父は逝きたり 福知山市 阪梨 義春

坊さんに習字を習ふひい孫が般若心経清がしくとなふ

高崎市 熊沢 峻

学校より持ち帰る蚕二頭「たらふく」「寝太郎」と子は名つけ飼ふ 横浜市 古山 智子

終活にと書物を処分せんとして再び読み継ぐ鵜外・荷風

泉佐野市 大東 常高

駅前に「昭和ですよ」と言う貌で丸いポストがぽつんと一つ

東大阪市 池中 健一

街並みを不思議な森と思いつつ食を求めてクマはさまよう

北上市 佐々木清志

熊除けの鈴と金剛杖を借り峠にかかる熊野古道の

瑞穂市 渡部 芳郎

栗木 京子選

休日ゆとりと思ふ冷凍のピザに加える畑のパジル

【評】忙しい日は冷凍ピザを電子レンジで加熱するだけだが、休日はそこにひと手間を添える喜びがある。自家栽培のパジルならば最高のおいしさ。「ゆとり」が輝いている。ホームでの暮らしは淋しい句を作り誰にも見せず逝った母なり

八街市 鈴木 たい

【評】二句切れの歌として読んだ。「淋しい」は母の気持ちであり、母を悼む作者の思いでもある。あろう。「誰にも見せず」とあるが、句作りによって母は救われたのだと思う。

むきたてのゆで玉子だよと頭撫で治療のりきる娘の笑顔

横浜市 梅川さりい

【評】治療薬の副作用で髪が抜けたのかもしれない。つらさをかかえながらも明るく振る舞う娘さん。「治療のりきる」が力強い。

岬には極楽鳥花咲き誇り眼下に青き紀伊水道見ゆ

宇陀市 大畑美千代

春先に白き花つけあじさいは水無月のいま紫の

入間市 飯島三枝子

物価高は聖なる世界にも迫り寺院の厄除け祈禱

東京都 青山 繁

料に目をむく

東京都 青山 繁

信号をもつみどりとは言わぬ子と渡ればつなぐ

岩倉市 古橋 紗弓

手のやわらかさ

岩倉市 古橋 紗弓

雲の峰とても遠くてわたくしの時間のタンクは

東京都 青木 公正

残り少ない

東京都 青木 公正

夏霧の湖をゆく白鳥のボートに帽子かぶれるチ

小諸市 藤 雪陽

ワワ

小諸市 藤 雪陽

大学院受かりし孫のはずむ声妻のスマホに耳寄

東京都 小松 貴志

せて聞く

東京都 小松 貴志

俵 万智選

窓ガラス拭けば向こうがよく見えてこちらの汚れだったと気づく

【評】ガラス越しの世界が曇って見える。それは世界のせいなのか、窓の外側のせいなのか、それとも？ まずは自分側の窓を拭いてみる大事さは、生きるヒントにもなりそうだな。いつ／＼どこで／＼なにに／＼どうして／＼惚れたのか分からないけど／＼だれか／＼は分かる

上尾市 関根 裕治

【評】いわゆる5W1Hを用いて、恋の不可思議さが表現された。訳の分からないことだらけだが、唯一はつきりしているのは自分

が／＼惚れてしまったことである。

ジャムパンのジャムに届かぬ二口のパンの味なり君との会話

青梅市 諸井 末男

【評】核心にたどり着けないもどかしさ。甘いジャムがあるとわかっていれば尚更だ。

エアコンのフィルター外して掃除せりナフサほどではないが目詰まり

市原市 井原 茂明

この紐も確か呼び名があったはず読み進みたる

太田市 木戸 健房

ページに挟む

太田市 木戸 健房

世界地図端から丸めてゆくように旅をしていた

大和郡山市 大津 穂波

図書室の棚

大和郡山市 大津 穂波

カタカナのようにあなたと知り合って さくら

太田市 鈴木まり子

さくらびらがなになる

太田市 鈴木まり子

人が人を傷つけたくてAIを働かせるとき

東京都 遠野 鈴

費電力

東京都 遠野 鈴

はや夏を申告敬遠しておりぬ五月半ばのエアコ

東京都 武藤 義哉

ン起動

東京都 武藤 義哉

いつまでも来ない誰かを待っている父は港のよ

高島市 くらたか湖春

うな眼をして

高島市 くらたか湖春